

埼玉・オハイオスカラシップ 奨学生、親善大使レポート 1月 新学期

こんにちは。1月のフィンドレーでは相変わらずの寒い日が続き、一度積もった雪が道の脇からなくなりません。また、日本とは比べものにならないくらい乾燥しています。留学も残り3か月余りとなった今月から、大学の新学期が始まりました。学部の授業を受講することもあり、一気に忙しくなった印象を受ける1か月でした。そんな中、今月は、大学内で行われる国際交流関係のイベントにも積極的に参加しました。

・学部 (Undergraduate) の授業

今学期から学部の授業を受講しています。今回選択したのは、哲学・ライティング・宗教・歴史の授業です。歴史の授業は主に南北戦争を描いた映画の移り変わりを追う内容になっています。フィンドレー大学に機械工学の授業がないこともあり、自分の専門とは関係の薄い授業を選択しました。自分の専門と大幅に外れている事や英語で行われる事が相まって、授業を理解するのに苦労します。課題の量も多く、週3日ある授業で締切りが「次の授業まで」となると、とても短いです。

ライティング以外の授業では、留学生がほかに一人もいません。アメリカ人ばかりの中で授業を受けています。歴史の授業では、バックグラウンドとなるアメリカ史の知識が現地の学生と比較して不足しているため、先生が何を言っているかは聞き取れるものの何のことかわからないといった事態が多いです。

今回の授業で最も苦戦しているのは宗教の授業です。授業のテーマは、世界の主要な宗教についてそれぞれの思想を比較する内容です。現地の生徒の多くはキリスト教に関する知識をある程度持っているようで、先生もそれを前提に話します。そのためどうしても内容を理解するまで時間がかかってしまいます。また授業中もクラス内でのディスカッションなどでどうしても遅れをとってしまいます。特に、厳密な内容になってくると言葉のニュアンスが分からないと正確な理解ができません。

授業の難易度は大幅に上昇し、新しく学ぶ内容も多いです。アメリカ人の考え方やその背景はもちろんの事、自分の語彙力も高くなっていると感じます。また、日本の大学では普段取ることが難しい授業を受講できて新鮮な気持ちです。

・国際交流のイベント

今月は多くのイベントにお誘いいただき、たくさんの新しい発見がありました。

た。そのうちの2つのイベントを紹介します。

まず、フィンドレー大学の教育関係の授業のお手伝いをさせていただきました。これはアメリカ人の学生に日本語で指示を与えて塗り絵をしてもらうというものです。この目的は、将来先生になろうと考えているアメリカ人の学生に、外国人の子供がクラスで先生の言語が違うために指示が理解できないとどれだけ大変かを体験してもらうためです。私のパートナーになった生徒も非常にイライラしていて、アクティビティーの後とても参考になったと言っていました。

もう一つのイベントでは、フィンドレー大学の留学生で、フィンドレー内の高校生に異文化の紹介をしました。私のグループでは、学校生活の違いで話が盛り上がりました。アメリカの高校は学区制がベースのようで、自宅から離れた高校に行くことは少ないようでした。そのため、私が高校まで電車とバスで45分かけて通学していたことを話すと、とても驚いていました。大学までは更に時間がかかることを説明すると、冗談だと思われてしまいました。また日本の「道徳」の授業についてとても興味を持っていました。アメリカでは日本の道徳のように礼儀やモラルを教えるような授業がなく、アメリカでもこのような授業があったほうが良いと考える人もいます。日本で当たり前のように受けていた授業も、国が違くと興味深い議論の種になりました。



高校生との交流